

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/25

焦点は欧州債務問題から米債務上限問題へ

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	米債務上限問題次第では・・・ 予想レンジ: 109.50 ~ 114.00円	2-3
ユーロ/ドル	➡	米債務上限問題睨みで神経質な展開も 予想レンジ: 1.4050 ~ 1.4530 ドル	4-5
ポンド/円	➡	主要国株価を睨んで 予想レンジ: 125.00 ~ 131.00 円	6-7
ポンド/ドル	➡	米債務上限引き上げ協議の行方は？ 予想レンジ: 1.5750 ~ 1.6550 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 7/18~22までの主な推移



<p>7/18 Monday</p>	<p>15日の取引終了後に発表された欧州ストレステスト(健全性審査)の結果を疑問視する形で、金融株を中心に欧州株が軟調に始まると、ユーロ/円は110.65円の安値を付けた。(①)しかし、その後、ベネゼロス・ギリシャ財務相が「21日のユーロ圏首脳会議で、債務問題への対応策が合意に達する」との見通しを示した事を受けてユーロ買いが強まると、ユーロ/円は111.61円まで反発した。</p>
<p>7/19 Tuesday</p>	<p>ノボトニー・オーストリア中銀総裁が「ギリシャのデフォルト(債務不履行)は非常に重大な結果になるだろう」などと述べた事が嫌気されてユーロ/円は一時111.16円まで下落した。しかしその後、独紙が「スイス系銀行が独財務省に税金として100億ユーロを支払う事で合意した」と報じた事を受けてユーロ買い・スイスフラン売りが強まると、対円でもユーロが買われ、ユーロ/円は112.31円まで上昇した。(②)</p>
<p>7/21 Thursday</p>	<p>ユーロ圏首脳会議に先立って行われていた独・仏首脳会談で、両国がギリシャ支援に関して共同見解に達したとの報道が伝わると、ユーロ買いが優勢となったが、ユンケル・ユーログループ議長が「ギリシャの選択的デフォルトはひとつの可能性」と述べた事が伝わると、ユーロ/円は111.44円まで急落した。しかしその後、ユーロ圏首脳会議の声明草案として「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の融資期間は7年半から少なくとも15年に延長される」「ギリシャやポルトガルに適用されている金利は4.5%程度から3.5%程度に引き下げられる」「EFSFは欧州中央銀行(ECB)次第で流通市場への介入が可能となる」などと伝わると、ユーロ/円は113.13円まで急騰した。(③)</p>
<p>7/22 Friday</p>	<p>格付け会社フィッチが、ユーロ圏首脳会議で合意したギリシャ支援策を受けて、ギリシャの格付けを「制限的デフォルト」にする方針を明らかにした事に加え、米キャタピラー社の第2四半期決算が予想を下回ると、時間外のNYダウ平均先物が急落。リスク回避ムードが拡がるとユーロ売りが優勢となった。さらにその後、ノルウェーの首都オスロの政府庁舎付近で、大規模な爆発が起きたと報じられると、リスク回避の動きが加速し、ユーロ/円は112.25円まで下落した。(④)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は110.65円～113.57円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.7%の上昇(ユーロ高・円安)となった。米債務上限引き上げ問題の期限とされる8月2日まであと1週間余りを残すのみとなったにもかかわらず、この問題をめぐる米与野党協議に進展が見られない事からリスク回避ムードが広がり始めている。もっとも、市場参加者の多くは「米国のデフォルトは回避されるはず」との見方を維持しているようで、米国のデフォルトを「実際に」織り込む動きは見られていない。ただし、この協議が長引けば長引くほど、引き上げ合意への不透明感が高まり、リスク回避的なユーロ売り・円買いが強まりやすい地合いにあると言えるだろう。こうした不透明感を背景に今週のユーロ/円相場は上値が重い展開となりそうだが、米債務上限引き上げ問題が急転直下の合意となれば、短期的にユーロ/円が急騰するリスクを考慮しつつの展開となるため、一方的なユーロ売りにも警戒感が残る。米債務上限引き上げ問題に絡む報道や、主要国の株価の動きに一喜一憂しつつ、荒い値動きとなる可能性もありそうだ。(神田)

(予想レンジ:109.50～114.00円)

EUR/USD

ユーロ/ドル 7/18~22までの主な推移



<p>7/18 Monday</p>	<p>15日の取引終了後に発表された欧州ストレステスト(健全性審査)の結果を疑問視する形で、金融株を中心に欧州株が軟調に始まると、ユーロ/ドルは1.4013ドルの安値を付けた。(①)しかし、その後、ペニゼロス・ギリシャ財務相が「21日のユーロ圏首脳会議で、債務問題への対応策が合意に達する」との見通しを示した事を受けてユーロ買いが強まると、ユーロ/ドルは1.4118ドルまで反発した。</p>
<p>7/19 Tuesday</p>	<p>ノボトニー・オーストリア中銀総裁が「ギリシャのデフォルト(債務不履行)は非常に重大な結果になるだろう」などと述べた事が嫌気されてユーロ/ドルは1.4067ドルまで下落した。しかしその後、独紙が「スイス系銀行が独財務省に税金として100億ユーロを支払う事で合意した」と報じた事を受けてユーロ買い・スイスフラン売りが強まると、対ドルでもユーロが買われ、ユーロ/ドルは1.4216ドルまで上昇した。(②)</p>
<p>7/21 Thursday</p>	<p>ユーロ圏首脳会議に先立って行われていた独・仏首脳会談で、両国がギリシャ支援に関して共同見解に達したとの報道が伝わると、ユーロ買いが優勢となったが、ユンケル・ユーログループ議長が「ギリシャの選択的デフォルトはひとつの可能性」と述べた事が伝わると、ユーロ/ドルは1.4138ドルまで急落した。しかしその後、ユーロ圏首脳会議の声明草案として「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の融資期間は7年半から少なくとも15年に延長される」「ギリシャやポルトガルに適用されている金利は4.5%程度から3.5%程度に引き下げられる」「EFSFは欧州中央銀行(ECB)次第で流通市場への介入が可能となる」などと伝わると、ユーロ/ドルは1.44ドル台まで急騰した。(③)</p>
<p>7/22 Friday</p>	<p>格付け会社フィッチが、ユーロ圏首脳会議で合意したギリシャ支援策を受けて、ギリシャの格付けを「制限的デフォルト」にする方針を明らかにした事に加え、米キャタピラー社の第2四半期決算が予想を下回ると、時間外のNYダウ平均先物が急落。リスク回避ムードが拡がるとユーロ売りが優勢となった。さらにその後、ノルウェーの首都オスロの政府庁舎付近で、大規模な爆発が起きたと報じられると、リスク回避の動きが加速し、ユーロ/ドルは1.4323ドルまで下落した。(④)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米連邦債務上限引き上げ問題の混迷
- ・米国の超低金利長期化観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・米連邦債務上限引き上げ合意観測
- ・ドル金利の先高観
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4013～1.4437ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.5%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。21日に、ギリシャ向け第2次支援が合意に至った後は、米国の債務上限引き上げ問題が焦点となっている。ただし、25日早朝の取引では、この問題をめぐる協議が難航している様子が伝えられると、一瞬ドル売り(ユーロ買い)が強まったものの、NYダウ平均先物が大幅に下落すると、一転してユーロ売り(ドル買い)に傾くなど、売買が交錯する様子が見られた。債務上限引き上げの期限とされる8月2日まであと1週間余りとなったが、この問題について、実際に交渉が決裂し米国債がデフォルトとなる可能性を見込む向きはごく少数であり、債務上限引き上げをめぐる「不透明感」が相場の手掛かり材料である間は、主要国株価の下落を通じてユーロ売り(ドル買い)材料となるだろう。一方で、最終的に交渉がまとまらず、米国債のデフォルト懸念が「実際問題」として浮上すればドル売り(ユーロ買い)要因となる可能性が高い。いずれにしても、今週のユーロ/ドル相場は、米債務上限引き上げ問題を睨んで神経質な展開となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.4050～1.4530ドル)

GBP/JPY

ポンド/円 7/18~22の主な推移



<p>7/18 Monday</p>	<p>東京祝日の薄商いの中、時間外のNYダウ先物が大幅に下落すると、ポンド/円は126.94円まで値を下げた。さらに、NY市場に入り、欧州の債務・信用不安や米国の債務上限引き上げを巡る協議の難航ぶりを受けてNYダウ平均が寄り付きから大幅に下落すると、ポンド/円は126.66円まで一段安となった(①)。</p>
<p>7/19 Tuesday</p>	<p>欧州市場序盤、ノボトニー・オーストリア中銀総裁が「ギリシャのデフォルトは非常に重大な結果になるだろう」などと発言。これらを受けてユーロ/円が大幅に下落すると、ポンド/円も連れ安となった。しかし、独紙が「スイス系銀行が独財務省に税金として100億ユーロ支払うことで合意」と報じ、ユーロ買い・スイスフラン売りが強まると、ユーロ/円も連れて上昇。これにさらに連れる形でポンド/円も値を上げた(②)。</p>
<p>7/20 Wednesday</p>	<p>日経平均が寄り付きから1万円の大台に乗せたこと等を好感し、ポンド/円は127.82円まで上昇した。しかしその後は上値が重く、欧州市場序盤に入ると、17時30分に発表されるイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録について、前回よりもハト派寄りな内容を期待する向きやポジション整理のためのポンド売りが入り、ポンド/円は126.72円まで下落した(③)。しかし、実際に発表された議事録によって、政策決定時の投票バランスは前回と変わりなしだったことが明らかになると、ポンドは急速に買い戻された。</p>
<p>7/21 Thursday</p>	<p>17時30分に発表された英6月小売上高指数は前月比+0.8%と市場予想(+0.5%)を上回り、発表直後はポンド買いで反応したが、ユンケル・ユーログループ議長が「ギリシャの選択的デフォルトは1つの可能性」と述べたことが伝わり、ユーロ/円が大幅に値を下げたことでポンド/円の上値は限られた。しかしその後、ユーロ圏首脳会議の声明草案としてギリシャなどへの支援を含む合意がなされたことが報じられると、ユーロ/円が急反発。これに連れたほか、NYダウ平均の上昇などもあいまって、ポンド/円も大幅に上昇した(④)。</p>
<p>7/22 Friday</p>	<p>前日の流れを引き継ぎ朝からユーロ/円が上昇すると、ポンド/円は連れ高となり128.38円の高値をつけた(⑤)。しかしその後は上値が重い展開。米国市場に入ると米建機大手キャタピラーの決算が予想を下回り、NYダウ平均先物が下落したことや、ノルウェーの首都オスロで大規模な爆発が起きたことが報じられ、リスク回避の動きが強まったことをなどを背景に127.48円まで値を下げた。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

今週の見通し

今週の英国では、26日に第2四半期国内総生産(GDP)・速報値という重要指標の発表が予定されており、結果には注目が集まる。予想よりも大幅に悪ければ、英国の資産買い入れ枠拡大観測を絡めながらポンドは大きく値を下げそうだ。ただし、それを除くと今週の英国に注目度が高い独自材料はほとんどない。基本的に、主要国株価に連れる展開が予想される。

ギリシャの追加支援策が一応のまとまりを見せたことで、目先の欧州のリスク要因は減った格好だが、依然として米国の債務上限引き上げ協議の難航がリスク要因として残っており、この件が混迷の度合いを強めれば、リスク回避の株売りが出てポンド/円の圧迫要因になりそうだ。しかし一方、米債務上限引き上げが米議会の合意を得られる目途が立てば、株価が一段と上昇し、ポンド/円の上値を押し上げるとみる。また、今週も米企業決算が続くため、各決算の内容にも注目したいところだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ:125.00~131.00円)

GBP/USD

ポンド/ドル 7/18~22の主な推移



7/18 Monday	東京祝日の薄商いの中、時間外のNYダウ先物が大幅に下落すると、ポンド/ドルは軟化。さらに、NY市場に入り、欧州の債務不安や米国の債務上限引き上げを巡る協議の難航ぶりを受けてNYダウ平均が寄り付きから大幅に下落すると、ポンド/ドルは1.6003ドルまで下げた(①)。
7/19 Tuesday	夕方、独紙が「スイス系銀行が独財務省に税金として100億ユーロ支払うことで合意」と報じ、ユーロ買い・スイスフラン売りが強まると、ユーロ/ドルも連れて上昇。これにさらに連れる形でポンド/ドルも上昇。さらに、NYダウ平均が寄り付きから大幅に上昇すると、ポンド/ドルは1.6176ドルまで値を伸ばした(②)。しかし、27時前にオバマ米大統領が会見にて「債務についての協議で一定の進展があり、幾分(共和党との)意見の溝が狭まった」「超党派の上院議員グループが提案している財政赤字削減策は、私がこれまで考えてきた債務削減策とおおむね一致している」などとの見解を示すと、米国の債務上限引き上げ交渉進展を好感し、ドルが買われた。
7/20 Wednesday	欧州市場序盤、17時30分に発表されるイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録について、前回よりもハト派寄りな内容を期待する向きやポジション整理のためのポンド売りが入り、ポンド/ドルは一時1.6067ドルまで下落した(③)。しかし、実際に発表された議事録によって、政策決定時の投票バランスは前回と変わりなしかったことが明らかになると、ポンドは急速に買い戻された。
7/21 Thursday	欧州市場序盤から欧州株の伸び悩む様子を受け、ポンド/ドルはじりじりと下落。17時30分に発表された英6月小売売上高指数は前月比+0.8%と市場予想(+0.5%)を上回り、発表直後はポンド買いで反応したが、ユンケル・ユーログループ議長が「ギリシャの選択的デフォルトは1つの可能性」と述べたことが伝わり、ユーロ/ドルが大幅に値を下げると、ポンド/ドルも1.6118ドルまで下落した。しかし、ユーロ圏首脳会議の声明草案としてギリシャなどへの支援を含む合意がなされたことが報じられると、ユーロ/ドルが急反発。これに連れたほか、NYダウ平均の上昇などもあいまって、ポンド/ドルも大幅に上昇し、1.63ドル台に乗せた(④)。
7/22 Friday	前日の流れを引き継ぎ、朝からユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルは連れ高となり1.6339ドルの高値をつけた(⑤)。しかしその後は上値が重い展開。ノルウェーの首都オスロで大規模な爆発が起きたことが報じられ、一時1.6263ドルまで値を下げる場面も見られたが、米債務不安が強い中でのドル買いは続かず、すぐに下げ幅を縮小した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

今週の見通し

今週の英国では26日に第2四半期国内総生産(GDP)・速報値という重要指標の発表が予定されており、結果には注目が集まる。また、米国でも、5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数や7月消費者信頼感指数、7月リッチモンド連銀製造業指数(26日)、6月耐久財受注や米地区連銀経済報告(27日)、週次の新規失業保険申請件数や6月中古住宅販売件数(28日)、米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値や7月シカゴ購買部協会景気指数(29日)など、多くの重要指標やイベントが予定されている他、米国債入札(26日:2年債、27日:5年債、28日:7年債)、米主要企業決算などもあり、手掛かり材料は非常に多い。

もっとも、目下のところ金融市場の関心は米連邦債務上限の引き上げに集中しており、これが議会での合意にいたる気配を見せるまでは、ややドルが売られやすい状態が続くとみる。上記の手掛かり材料への相場の反応は普段に比べてかなり限定されそう。ただ、上限引き上げで合意に至れば、一旦大幅にドルが買い戻された後、各種経済イベントや株価睨みの展開になる。 (ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5750~1.6550ドル)

経済指標カレンダー (7/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/25 (月)	10:30		(豪) 第2四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.9%	—
7/26 (火)	07:45	○	(NZ) 6月貿易収支	+6.05億NZD	+4.00億NZD
	15:00		(独) 8月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.5%	+0.1%
		◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.6%	+0.7%
	22:00		(米) 5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.96%	-4.65%
	23:00	○	(米) 6月新築住宅販売件数	31.9万件	32.0万件
			(米) 6月新築住宅販売件数 [前月比]	-2.1%	+0.3%
	23:00	○	(米) 7月消費者信頼感指数	58.5	57.9
	23:00	○	(米) 7月リッチモンド連銀製造業指数	3	5
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
7/27 (水)	10:30	◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前期比]	+1.6%	+0.7%
		◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	17:00		(ユーロ圏) 6月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30		(スイス) 7月KOF先行指数	2.23	2.10
	21:30	○	(米) 6月耐久財受注 [前月比]	+2.1%	+0.3%
		○	(米) 6月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.7%	+0.5%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
	未定	◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.1%	+0.3%
		◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
7/28 (木)	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレート	2.50%	—
	16:55	○	(独) 7月失業者数	7.0%	7.0%
	16:55	○	(独) 7月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者信頼感・確報 [前年比]	-11.4	-11.4
	18:30		(南ア) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.9%	+7.0%
	21:30	◎	(米) 7/22までの週の新規失業保険申請件数	41.8万件	--
	23:00	○	(米) 6月中古住宅販売成約 [前月比]	+8.2%	-2.0%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (7/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/29	07:45		(NZ) 6月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	+3.0%
(金)	08:01		(英) 7月GFK消費者信頼感調査	-25	-24
		○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.2%
	08:30	○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 6月失業率	4.5%	4.6%
	08:50		(日) 6月鉱工業生産・速報 [前月比]	+6.2%	+4.4%
			(日) 6月鉱工業生産・速報 [前年比]	-5.5%	-1.3%
	17:30		(英) 6月消費者信用残高	+2億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 6月マネーサプライM4 [前年比]	-0.2%	—
	18:00	◎	(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	19:00	○	(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (6月29日～) [月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 6月貿易収支	-10億ZAR	-10億ZAR
	21:30	○	(加) 5月GDP [前月比]	±0.0%	+0.1%
	21:30	◎	(米) 第2四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+1.9%	+1.7%
	21:30		(加) 6月鉱工業製品価格 [前月比]	-0.2%	—
	22:45	◎	(米) 7月シカゴ購買部協会景気指数	61.1	60.0
	22:55	○	(米) 7月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	63.8	64.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com